

総合型地域スポーツクラブに関する事例研究 (6)

— 宇和島 A I T A N スポーツクラブの場合 —

Case Study on the Synthesized Community Sports Clubs (6)

— In the case of Uwajima AITAN Sports club —

体育学部体育学科

山本 孔一

YAMAMOTO, Koichi

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

キーワード：総合型地域スポーツクラブ，行政，地域コミュニティ

Abstract : The emphasis of the 2006 execution plan fiscal year of the fifth Ehime Prefecture long-term plan latter term contains "Promotion of the talent who bears present and the future of Ehime". The purpose of this emphasis is to develop athlete human resources area within the prefecture such as to target elementary school, junior high school and high school students are executed to put the excellent record in the 2017 Ehime National Sports Festival (Kokutai). It also enforces expansion of the sports population in the prefecture. The outlines of this project contain the following supports: the regional junior sports club support, a junior (junior high school and high school student) and a practice association support, and a junior sports frontier school support. "Uwajima AITAN Sports Club" was established in April 2007. Its aim is to educate "Junior" that can be active in the National Sports Festival (Kokutai). The establishment was done by collaboration with Ehime Women's Junior College, only tertiary institution located in Nanyo region, the Uwajima City Physical Education Society and the Uwajima City Board of Education.

The purpose of this research is to investigate the background, details and process of the establishment of "Uwajima AITAN Sports Club" to identify its results, current problems, and obstacles. Another purpose is to clarify objectively the situation after assistance ends. The results of this research will become reference in cities, towns, and village that will try to work on the integrated sports club in the future.

Keywords : Synthesized Community Sports Clubs, the administration, Social Community

I. 序 論

第五次愛媛県長期計画後期実施計画平成18年度重点プログラムの中に「愛媛の現在と未来を担う人材の育成」があり、えひめ国体に向けた人材育成事業目的として、愛媛国体（平成29年）で優秀な成績を収めるため、小，中，高校生のジュニアを対象とした育成・強化事業を実施し、本県におけるスポーツ人口の底辺拡大とジュニア選手の競技力の向上がある。その事業概要として、地域ジュニアクラブ支援事業，ジュニア

（中・高）・成年合同地区別練習会支援事業，ジュニアスポーツ・フロンティアスクール支援事業がある。

そして、今回の事例研究の場となる「宇和島AITANスポーツクラブ」は平成18年4月にスタートし、南予唯一の高等教育機関である愛媛女子短期大学が宇和島市¹⁾教育委員会，宇和島市体育協会と三位一体となって国民体育大会で活躍できる「ジュニア」の育成を目指す。本研究の目的は、「宇和島AITANスポーツクラブ」を調査研究対象とし、第一に「宇和島AITANスポーツクラブ」の設立の背景・経緯・形成過

程を調査し、現状での成果と問題点および課題を整理することである。そして第二に補助終了後の様子を追跡し、生の実態を客観的に明確にすることである。そして、今後総合型地域スポーツクラブに取り組もうとしている市町村に参考となる資料を提示したい。

Ⅱ. 宇和島 A I T A N 設立・経緯

1. クラブ設立の背景

宇和島市にはすでに宇和島アウトドアスポーツクラブが設立されていたが、総合型地域スポーツクラブの理念とは違うため、愛媛県体育協会より、国体を念頭に置き、ジュニアの育成ができる総合型地域スポーツクラブの研究をおこなっている愛媛女子短期大学に、育成事業に参加しないかという打診があった。そこで、宇和島市体育協会会長、副会長、理事長、教育長、教育次長、スポーツ振興課長、商工観光課長、スポーツ少年団会長など、地域スポーツに理解がある人たちを集め、総合型地域スポーツクラブ育成推進事業の趣旨説明（設立準備の補助金を基に宇和島市のジュニア育成に使い、そして愛媛国体にわが町から選手を出そう。そのためのクラブにしよう。という説明）を行い、設立時には体育協会所属クラブが全員会員として入会することを条件として本格的に設立に向けて動き始めた。しかし、総合型地域スポーツクラブに対する理解はまったくなく、盛り上がりもなかった。宇和島市が総合型地域スポーツクラブを支援する理由として、クラブの活動が町民全体の福祉を目的とするものであり、クラブのもつ性格（自主運営・受益者負担・そこから生まれる活動の自由さ）を考えると、クラブの存在自体が町民の心を刺激し、掘り起こす媒体となるものと考えられるからであり、宇和島市を豊かにするのはお金だけではない。市内に満ちるあたたかで前向きな空気も重要な要素。この空気を培うのが社会教育の役割である。すなわち、「お金にならないものにお金と同等の価値を見出す力」の涵養を住民に促すこ

とは、教育行政の責務と言える。以上のような理由をもって行うクラブへの支援活動は、宇和島市の町づくりならびに教育の基本方針にかなった活動である。そして、クラブ支援の試みは、現在社会教育全般で抱える「事業のマンネリ化」「参加者の固定化」という問題の解決に向けた取り組みでもある。

2. クラブ設立に向けての経緯

宇和島AITANスポーツクラブでは、平成16年度から総合型地域スポーツクラブ育成に向けての基礎づくりを行い、平成17年度に事業推進計画を策定し、クラブ発足に向けての準備を始めた。

まず、第1期目標として町の現状に即した総合型地域スポーツクラブを設立することを念頭に置き、第1期事業として、平成18年度は、教育委員会の協力のもと住民実態調査を実施予定であったが宇和島市から予算が取れず、実施はできなかった。総合型地域スポーツクラブ育成推進事業「育成指定クラブ委託金」の確定するまで先送りとした。本来であれば、宇和島市スポーツ振興課がこの調査を宇和島AITANスポーツクラブに依頼し、この調査結果で、宇和島市に今必要な中学校部活動の実態調査もでき、ジュニアクラブの監督や指導者の声を反映できたはずである。また、町の実情に応じたクラブのあり方を模索しながら各団体への説明会を実施。18年度補助金申請に向け、愛媛県体育協会と協力し、創設支援助成金申請を行った。なお、これと平行し、宇和島に総合型地域スポーツクラブがあれば、どういうメリットがあるかについての理論づくりや勉強に時間を費やした。

平成18年度は、設立準備委員会の結成（関係機関代表による具体的事項の決定）。運営委員会の発足、運営案・活動案の策定。先進地視察研修の実施（山口県、愛媛大学）。広報活動（チラシ、町広報誌、イベント開催、協賛企業募集）。創設活動支援助成金申請。クラブハウスの検討。会員の募集方法、運営体制の確立、それと平行しながらスポーツ教室、スポーツ交流大会、そしてNHKとのタイアップによるクラブ啓蒙のための一般市民を巻き込んだ「益子直美トークショウ記念講演会」を開催し、クラブ設立総会に向けての準備に弾みをつけた。

平成19年度は、スポーツクラブの定着を目指し、これまでの事業を継続しながら、補助金終了後の運営を見据えたクラブづくりを行うことにあった。またクラブ設立に向け指導者研修会に参加し、先進地視察研修も行われた。指導者養成事業では、指導者資格取得補

¹⁾ 宇和島市とは南予の中心都市で平成17年8月1日に吉田町・三間町・津島町と合併し、新宇和島市になる。人口91,152人、世帯数37,714世帯、面積469.48km。県の西南部に位置し、伊達10万石の城下町として栄えた南予地方の中核都市。標高80mの城山を囲む形で市街地を形成。四国西南地域における陸・海交通の要衝。産業は果樹栽培などの農業、水産業は漁船漁業の他、はまちなどの海面養殖、真珠養殖が盛んである。

助を行い、指導者の配置、指導体制の確立を図ると共に、指導者講習会も開き、指導者のさらなる質の向上と育成に努めた。愛媛女子短期大学体育会の監督・選手でスポーツ教室を行い、宇和島AITANスポーツクラブの知名度と総合型地域スポーツクラブの啓蒙に努めた。

3. 設立総会

宇和島AITANスポーツクラブは平成20年2月13日（水）に、愛媛女子短期大学で設立総会を開催することで正式に設立した。式には宇和島市長、愛媛県教育委員会、宇和島市体育協会会長・理事長、宇和島市教育委員会教育長、宇和島市スポーツ振興課課長とこれから運営の中心として活躍する愛媛女子短期大学の体育会監督・コーチおよび運営スタッフ総勢40名と体育会学生117名が参加した。総会次第としては、設立準備委員会から理事長が設立の経緯を入れながら挨拶し、会長挨拶と続き、議長選出を行い、平成20年度の「宇和島AITANスポーツクラブ」規約案、役員案、事業計画案、収支予算案と次々に承認され、宇和島市長より祝辞、愛媛県教育委員会保健スポーツ課課長より挨拶があり、地方高等教育機関である愛媛女子短期大学と宇和島市が二人三脚で長くしっかりと前を見て進むことが大切であると述べた。

また、特にイベントや集客のための催し物は一切実施しない理由としては、それぞれの組織と教育委員会が密接な協力体制があったからである。つまり、設立までにあまり費用がかからなかったのは、創設以前に宇和島市教育委員会、宇和島市体育協会と愛媛女子短期大学との設立と同時に会員となるという確約があったため、情報もスムーズに流れたからである。設立総会から会員募集を始め、目標の1000人に向け、5月からのクラブ活動およびスポーツ教室で募集活動を開始した。

Ⅲ. 宇和島AITANスポーツクラブ 設立準備期間の運営体制と財源

1. 運営体制

平成18年4月、設立準備委員会の設置。設立準備委員会の構成メンバーとして、教育長・体育協会・体育指導委員・スポーツ少年団・レクリエーション協会・小学校・中学校・高校・宇和島市商工観光課、スポーツ振興課、教育委員会からもメンバーを選出し、構成

された。

同年5月、運営委員会を設置し、クラブ設立総会に向け、諸準備に入った。設立準備委員会ではクラブの設立目的・理念や運営組織・運営方法、設置種目、イベント、広報活動、事務局の設置、施設の利用調整、予算計画や財源、会費の扱いなどについて検討。運営委員会では実務中心で関係団体との連絡・調整を行っている。

設立準備委員会メンバーは所属先を見れば分かるように宇和島市と宇和島市体育協会の主要メンバーで構成され、構成の平均年齢は51歳で、全構成の平均年齢51歳と同じである。この年齢構成は若いような気がする。

本来実務をする運営委員会のメンバー構成をみると人数が多すぎる。この要因は設立準備委員会のメンバーが重複しているからであり、実際の運営メンバーは設立準備委員会の理事長、副理事長とそれ以外の重複していないメンバーである。構成の平均年齢も51歳である。運営委員メンバーの所属先を見ると愛媛女子短期大学の体育会の監督や宇和島市の体育指導員が大半であり、このメンバーの中に宇和島市教育委員会の主要メンバーを入れているのは、大会やイベントなどを企画する際に施設面でスピーディに実施できることの利点がある。

実技指導委員は幅広いスポーツ種目を配置してあるが、体育協会の専門の指導者として指導するのが精一杯でクラブまでは手が回らない状態であり、愛媛女子短期大学の監督もインカレシーズン中は大学の部活動で精一杯であるのが現状であるが、シーズンオフをうまく使い、愛媛国体に向け、ジュニアの指導に力を入れていきたい。

2. 財源

1年目から設立まではあまり費用をかけないやり方であった。特に、スタートする18年度宇和島市の予算も組まれていない状態で、急遽、宇和島市民の実態調査を先送りすることになった。

18年度は日本体育協会の「平成18年度総合型地域スポーツクラブ育成事業」の補助金のみで運営された。下記のFigure 2008に18年度の支出明細を見てみると諸謝金及び旅費で約14%、これは従来の補助金を一過性に使用したクラブではここで全支出の3/4を占めているところが多い。スポーツ教室の指導者への謝金も設立準備委員会や運営委員会の出席者に運営会議の日当と旅費という形で支払われていたが、当の指導者お

よび設立準備委員会や運営委員会の出席者はボランティアで考えていたため、これを受け取る事を拒否していたが、来年からは予算がなくなるので今年のみということで、快く受領したとのことである。また、次に分かることは、印刷製本費37%、消耗品費20%この2項目で57%と全支出の半分以上を占めている。これは、総合型地域スポーツクラブの啓蒙のため、新聞広告やチラシで一般市民に広報したことやスポーツ教室やスポーツ交流会で必要最小限の消耗品に留めたことが経費を抑え、広報費に上手く回せたことが良かった。また、備品購入が一切ないことである。これは当時の担当者に確認したところ、この総合型地域スポーツクラブ創設支援事業では備品関係は購入できない規定があるとのことと納得した。印刷物は愛媛女子短期大学のほうで負担していることが分かる。ただ、一過性のイベントなどに費用を支出しなかったのはこれまでの愛媛の総合型地域スポーツクラブを視察研究された賜物である。(Table 2008)

19年度の支出の特徴としては、住民のスポーツに対する考え方や総合型地域スポーツの必要性、受益者負担の考え方などを織り込んだ宇和島市のスポーツに対する実態調査のために予算の約1/3を使用している。これにより調査結果を有効に使い、まず、スポーツで小学校・中学校のクラブ顧問連絡会議を開き、9年間のスポーツ一貫教育がなされることを期待している。スポーツが活発になれば、間違いなく、少年非行が減少し、町自体が明るくなることはだれもが認めるところである。このスポーツでの小中一貫教育も地方都市の生き残るための一つの方策である。(Table 2009)

2年間の補助金の収支計算書を見ると、愛媛女子短期大学体育会主催のスポーツ教室を中心に展開し、啓蒙活動は、宇和島市の体育協会が宇和島AITANスポーツクラブ主催のイベント活動に協力するという形でほとんど広報費をかけずに、集客していることがわかる。今までほとんどの行政主導型で行ってきた総合型地域スポーツクラブは補助金を従来のイベントに上乗せする方法で一時的に大イベントになったりするが、補助金終了後は代わり映えのない従来のイベントになり、余計に住民を失望させる結果になる。補助金を総合型地域スポーツクラブの設立のためにどう使用するのが一番のポイントである。

Table2008.

単位 (円)

科目	予算額(A)	中間報告額 (B)	最終報告額 (C)	決算額 (D) (B+C)	差異 (A-D)
1.諸謝金	219,000	114,000	0	114,000	105,000
2.旅費	251,780	112,780	0	112,780	139,000
3.借損料	149,000	84,000	111,930	195,930	-46,930
4.印刷製本費	314,000	0	550,700	550,700	-236,700
5.消耗品費	354,220	289,544	8,820	298,364	55,856
6.会議費	0	0	0	0	0
7.通信運搬費	32,000	0	0	0	32,000
8.賃金	0	0	0	0	0
9.保険料	24,000	24,000	0	24,000	0
10.雑役務費	156,000	0	204,226	204,226	-48,226
合計	1,500,000	624,324	875,676	1,500,000	0

Figure2008

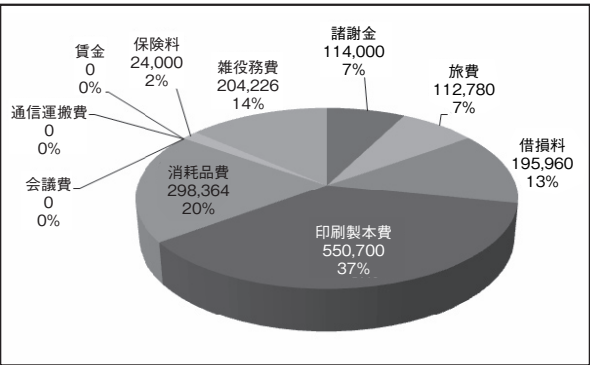
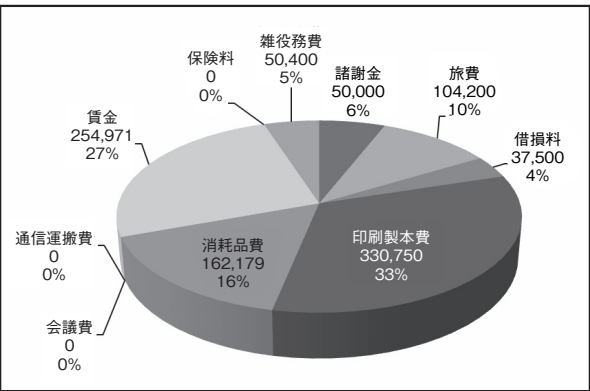


Table2009.

単位 (円)

科目	予算額(A)	中間報告額 (B)	最終報告額 (C)	決算額 (D) (B+C)	差異 (A-D)
1.諸謝金	60,000	30,000	30,000	60,000	0
2.旅費	104,200	97,820	6,380	104,200	0
3.借損料	37,500	37,500	0	37,500	0
4.印刷製本費	330,750	330,750	0	330,750	0
5.消耗品費	162,179	110,000	52,179	162,179	0
6.会議費	0	0	0	0	0
7.通信運搬費	0	0	0	0	0
8.賃金	254,971	0	254,971	254,971	0
9.保険料	50,400	50,400	0	50,400	0
10.雑役務費	156,000	0	204,226	204,226	-48,226
合計	1,000,000	666,470	343,530	1,000,000	0

Figure2009



Ⅳ. 宇和島AITANスポーツクラブの

概要と問題点

1. 概要

クラブは、「自分たちが作る自分たちのためのクラブで、一人一人が性別・年齢・技能・体力に応じて多くの活動から選択できるだけでなく、個人のライフステージに応じた文化スポーツを選ぶことができる異年齢間の交流ができる場所の提供づくりを行うものである。」という総合型地域スポーツクラブ育成の趣旨に基づき、住民が自発的にスポーツ活動及び文化活動を楽しみ、各自の健康・体力を維持増進するとともに、地域社会での交流を広げ連携を深めることによって、明るく豊かな生活の実現に資することを目的としている。名称に関しては、設立準備委員会で「愛媛女子短期大学が宇和島のために何ができるかという地域貢献を最優先に考え、あらゆる社会的活動において宇和島の子どもの未来のために、そしてスポーツだけでなく豊かで活力のある町づくりのため」という意味を込めてつけられた。クラブ事業として、定期的な文化活動・スポーツ教室の開催、競技会などのスポーツ行事の開催、会員の健康・体力の増進を目指す体力テスト、健康診断などの行事の開催、地域住民のスポーツ活動や地域づくりに資するボランティア活動の実施、校区内外の各種スポーツに関する情報提供、健康・体力に関する相談事業の開催、各種研修会の開催など、このような事業を展開することによってクラブの幅が広がっていくと思われる。また、イベントは様々な世代交流や、地域活性化など非常に多くの効果をもたらし、イベントを多く開催することでクラブが地域に根付いたものとなり、クラブと地域の密着度はさらに高くなる。しかし、現状では、まだ数回のイベント活動しか行われていない。さらに、イベントだけでなく地域の各サークル活動を中心としながら、そのサークルが中心となって指導を行うスポーツ・文化教室の開催もクラブ活性化には欠かせないものであるため、今後は幅広い事業展開に期待したい。

このクラブの会員特典を現在検討中である。これらの特典があることによって、会員集めや、会費徴収への意識向上に繋がる。

2. 問題点

2-1. 運営体制

クラブには、設立準備委員会が設置されているが、そこには、各団体の代表者が入っている。そのためそ

の会のほとんどが名誉職の人たちであり、彼らはそれぞれの仕事で手がいっぱいという状態である。そのため、クラブの運営に積極的に参加できる人がほとんどいない。そこで実務部隊として、運営委員会を立ち上げ、各部局（企画、広報、会計など）が作られたが、役割分担がされていないため、クラブの運営は創設者であり、理事長であるA氏が行っている状態である。また、クラブの理念やコンセプトはA氏自身、しっかりとしたものを持っているが、それをほかの役員や行政と共有していない。そのためサポーターを増やすことは困難であるため急遽大学の教員及び職員の増員を計った。クラブの運営はA氏がこけてしまうと、クラブ自体が運営されなくなるという危機に面している。このような運営に携わるスタッフの少なさが大きな問題といえる。

また、事務局は愛媛女子短期大学に置いているが、現在その役割を果たしておらず、事務局は補助金の会計処理のみの形骸化が起こっている。さらに会員の交流の場として総合型地域スポーツクラブでは欠かせないクラブハウスもないため、クラブが形として地域の人々に見えない状態であり、地域の人々やクラブ員でさえ、総合型地域スポーツクラブとは何なのか分かっていない。そのため、地区にある既存のスポーツ・文化団体も、自分たちの活動だけでもよいと考え、総合型地域スポーツクラブとして活動しようとする人は少なく、なかなかスポーツ・文化部が増えない状況である。

2-2. 財源

クラブは会費を徴収しようとしているが、会費の値段が決まらないため、現在のところは徴収していない。これは、受益者負担という会費を中心として運営していく総合型地域スポーツクラブの理念にそっていない。現在は日本体育協会の補助金のみで運営している。現在のクラブは、クラブ員を増やそうとしているところであり、住民はお金を払ってスポーツや文化活動を行うという意識がまだまだ低い段階である。しかし、今まで全国的に見ても会費を徴収しなかったクラブで成功した例はない。そのため補助金に頼った運営は将来的に不安を抱えるものと考えられる。また、支出面においても、その多くは地区役員や事業運営者に支払われており、お金を出して協力を得ている状態と考えられる。本来総合型地域スポーツクラブは地域のボランティアで成り立っているものであるため、このまま続けていくのはクラブ役員の意識も低下させて

しまう恐れがあると考えられる。そこにお金をかける状態では総合型地域スポーツクラブとしてのビジョンを見失ってしまう。そのため役員も従来どおり活動を行っておけばよいと考えてしまう。そうではなく、クラブ独自の活動に費用をかけていく必要がある。さらに、クラブでは、人材養成に資金を使っていない。クラブマネジャーや指導者、そしてプログラマーなどこのクラブには人材が少なすぎる状態である。それにもかかわらず、その養成にお金を使っていない。今後のクラブ展開を考えても、もっと人材養成にお金をかけることが大切といえる。以上のようにクラブとしての自主財源の確保とイベントや各部への活動資金、さらには人材養成としての使い方をもう一度見直す必要が求められている。

3. 関係者インタビュー

クラブの設立後の問題点について、クラブの創設者であり、クラブの理事長であるA氏にインタビューを行い、また、クラブの運営に重要とされている、人材確保、活動施設、会費、情報、組織の5つの視点から問題点を整理し、今後の宇和島AITANスポーツクラブの定着・発展のための方策を考察することとする。

3-1. 人材確保

運営委員会のメンバーは28名すべてボランティアであったが、なかなか機能しない。また、お願いしていた体育指導委員がほとんど運営委員会のメンバーに入っていない。体育指導委員が本来の役割である社会体育の仕事ができていないのが現状である。選出方法にも問題がある。昼間自分の仕事で精一杯で、土日も仕事があるのにどうして手伝いができるのかといった疑問も出てきた。本当の目的である町のスポーツの振興のために働くまでに至っていない。協力はできなくても、最大の総合型地域スポーツクラブの理解者になってくださいとお願いした。

3-2. 活動施設

すべて、活動施設がたりない。「パチンコかスポーツか」といわれる町である。場所の確保が大変である。総合型地域スポーツクラブとして既存のクラブに相乗りする形でおぎなっている。将来は、スポーツトレーナーがいるフィットネスクラブやスポーツ選手のリハビリセンターを丸山公園に造り、クラブハウスも造りたい。

3-3. 会費

1年目は年間1000円にした。とりあえず安くしたのは会員を増やすことである。理想としては500万円の収支があれば、NPO法人も取り、専属で事務局を運営する人を確保できる。会員一人当たり年間会費1万円が取れるクラブにしていきたい。

3-4. 情報

ホームページを立ち上げたが、停滞している。また、ホームページよりも、高齢者が多いのでインターネットよりも回覧板のほうがあっていることもある。しかし、ホームページは継続していきたい。チラシの配布は学校などをうまく使える利点があるので楽である。

3-5. 組織

うまくいったと思います。設立まではよかったが、自分が外れたときが不安である。このあと、引継ぎがうまくいくシステム作りも重要である。クラブマネジャーも重要である。

V. 宇和島AITANスポーツクラブ

定着・発展のための方策

設立後の運営やキーマンへのインタビューを通して、宇和島AITANスポーツクラブの問題点が明らかにされた。今後、クラブが数々の問題点を解決し、愛媛県の総合型地域スポーツクラブのモデルになるためには、総合型地域スポーツクラブのキーワード（多項目・多世代・レベルの多様性・拠点施設・受益者負担・自主運営）に出来るだけ近づくことが必要であろう。そのため、全国の上手くいっている総合型地域スポーツクラブを参考にしながら宇和島AITANスポーツクラブがすべきことを提案する。

①クラブ理念の共有を行うために、役員や各種の団体とクラブについてもう一度じっくり話し合い、クラブ理念の再検討・再構築をする。その際には、スポーツ・文化活動の把握をするために住民調査や各種団体の聞き取り調査をする。そして、「いま、地域で何が一番問題か」「いま、学校教育の中で何が一番問題か」を明確にし、これらの諸問題を解決するひとつの手段として総合型地域スポーツクラブを位置づけ、具体的なターゲットをどの世代にするのか、例えば、子どもにするのか、高齢者にするのかを決める必要がある。

②運営組織の立て直しを行う。現在、クラブにはキーパーソンがA氏ひとりしかいないため、新しいキーパーソンを地域から見つけ出し、育てていく必要がある。また、そのキーパーソンを支えるサポーターを増やすことも必要である。クラブ会長をも含む全員が役割を持っている。このように一人一人の役割と責任を明確化することや、何か各部局のひとつのメンバーになることで、組織の活性化に繋がる。さらに月に1回程度は運営委員会を開き、各部局の現状把握や意識の統一を行うべきである。

③会員の明確化とクラブ意識の向上のために既存のスポーツ・文化団体に教室サービスを行ってもらおう。そして、そのサービスに補助金を配ることが大切である。何もない団体に補助金をばらまいても何も出てこない。ここから会員を増やす糸口ができる。また、週1回以上のスポーツ実施率を37%から50%に上げるためには、ひとつのスポーツ教室に多くのスタッフが必要である。このように定期的に教室を行うことで普段スポーツに親しんでいない人にスポーツをする機会を提供することができ、会員を増やすことができる。

④人材育成を行うために、現在の収入源である補助金をもっと人材養成のために活用する。クラブにはマネジメント担当者やクラブ指導担当者などあらゆる人材が不足している。そのような人材を増やすためにも、研修会などを頻繁に行い、全国の総合型地域スポーツクラブを視察に行き、勉強する機会を与え、少しでもレベルや能力の高い人材を養成することによってクラブ事業の充実に繋がる。

⑤会費を徴収し、自主財源を確立する。そのためには、クラブのキーパーソンが「お金を払ってもよいクラブとはどのようなクラブか」という具体像を作らなければならない。それがなければ会費を取ることはできない。また、会費を出してもよいクラブにするためには、商業スポーツセンターのソフト面などの研究などを行い、様々なメリットを作り出さなければならない。さらに、会費以外にもイベントで地域の企業から広告費を集め、会員による屋台やバザー開催等で財源を増やすことができる。加えて、地区の企業や商店街からの協賛金を増やすためには、協賛金の一部をそのお店の商品券等に変え、会員に配る。そうすることでそのお店もお客を増やすことが

でき、クラブとの関係も深まり、町おこしに繋がってくる。

⑥宇和島A I T A Nスポーツクラブは拠点を持っていないので拠点をづくり、その拠点を活用し、運営委員会の場、文化活動の場、さらには会員が自由に入力できる場を設ける。コートの外空間を作り出すクラブハウスがあることは、人間関係を深め、コミュニティを形成する。また、ヨーロッパのスポーツクラブや山口県のS Aスポーツクラブのようにクラブの活動後、クラブハウスでお酒が飲めると、特に男性や高齢者との居場所ともなり、クラブの魅力は倍増する。

⑦会員一人一人に「マイクラブ」の意識を作るために、できるだけ多くのクラブ員で協力してイベントを開催することにより、イベントは「人を育てる」「人間関係を深める」「組織を強くする」などの機能を果たし、自分たちのクラブであるという意識を持つことができる。

Ⅳ. 結論

アメリカでは日本のプロ野球と異なり、プロチーム名にスポンサー企業名をつけず、地名や愛称で称している。これは地域住民との密着度が高いからである。また、財政的には、マイナスでも球場建設に取り組み、球団誘致の結果、球場や球団があることによる増収や地価上昇、企業誘致などの副次的効果があり、また、観戦にきたファンからホテル税、駐車場税、入場券税、レンタカー税などを徴収して回収を図ることができる。これが、アメリカがプロスポーツを厚遇する理由である。

ぜひ、「宇和島AITANスポーツクラブ」と行政が手を組み、プロスポーツチームを持つ前提で「宇和島A I T A Nスポーツクラブ」の中からプロスポーツチームを作れるような財政基盤と環境を整備していくことが急務である。

参 考 文 献

1. 山本孔一・堺賢治（2002・2003）
「総合型地域スポーツクラブに関する事例研究」
－文化の里スポーツクラブの場合－
愛媛女子短期大学紀要第14・15合併号pp.15-27
2. 堺賢治・藤原誠・山本孔一（2004）

「総合型地域スポーツクラブ設立のための住民調査」－愛媛県上浮穴郡久万町の場合－

愛媛大学教育学部紀要第51巻第1号p115～p120

3. 文部科学省（2001）

「総合型地域スポーツクラブ育成マニュアル～クラブづくりの4つのドア～」

（平成20年11月27日受理）

資料 1

平成18年度 育成指定クラブ委託事業 収支計算書

単位(円)

科 目	予算額(A)	中間報告額(B)	最終報告額(C)	決算額 (D) (B+C)	差異 (A-D)	備 考
1 諸 謝 金	219,000	114,000	0	114,000	105,000	
会議開催				0	0	
スポーツ教室開催	19,000	14,000		14,000	5,000	
ポグ交流大会開催	100,000	100,000		100,000	0	
広報・調査活動				0	0	
研修会等開催・参加				0	0	
その他の活動	100,000			0	100,000	
ポグマージ+配置				0	0	
2 旅 費	251,780	112,780	0	112,780	139,000	
会議開催	121,000	77,000		77,000	44,000	
スポーツ教室開催				0	0	
ポグ交流大会開催				0	0	
広報・調査活動				0	0	
研修会等開催・参加	60,780	35,780		35,780	25,000	
その他の活動	70,000			0	70,000	
3 信 用 料	149,000	84,000	111,930	195,930	-46,930	
会議開催				0	0	
スポーツ教室開催	51,000	36,000		36,000	15,000	
ポグ交流大会開催	48,000	48,000		48,000	0	
広報・調査活動				0	0	
研修会等開催・参加				0	0	
その他の活動	50,000		111,930	111,930	-61,930	
4 印刷製本費	314,000	0	550,700	550,700	-236,700	
会議開催				0	0	
スポーツ教室開催				0	0	
ポグ交流大会開催				0	0	
広報・調査活動	100,000		243,181	243,181	-143,181	
研修会等開催・参加				0	0	
その他の活動	214,000		307,519	307,519	-93,519	
5 消 耗 品 費	354,220	289,544	8,820	298,364	55,856	
会議開催				0	0	
スポーツ教室開催	154,176	119,000	8,820	127,820	26,356	
ポグ交流大会開催	200,044	170,544		170,544	29,500	
広報・調査活動				0	0	
研修会等開催・参加				0	0	
その他の活動				0	0	
6 会 議 費	0	0	0	0	0	
会議開催				0	0	
7 通信運搬費	32,000	0	0	0	32,000	
会議開催				0	0	
スポーツ教室開催				0	0	
ポグ交流大会開催				0	0	
広報・調査活動				0	0	
研修会等開催・参加				0	0	
その他の活動	32,000			0	32,000	
8 賃 金	0	0	0	0	0	
その他の活動				0	0	
9 保 険 料	24,000	24,000	0	24,000	0	
その他の活動	24,000	24,000		24,000	0	
10 雑 役 務 費	156,000	0	204,226	204,226	-48,226	
広報・調査活動			82,688	82,688	-82,688	
その他の活動	156,000		121,538	121,538	34,462	
合 計	1,500,000	624,324	875,676	1,500,000	0	

資料 2

平成19年度 育成指定クラブ委託事業 収支計算書

単位(円)

科 目	予算額(A)	中間報告額(B)	最終報告額(C)	決算額 (D) (B+C)	差異 (A-D)	備 考
1 諸 謝 金	219,000	114,000	0	114,000	105,000	
会議開催				0	0	
スポーツ教室開催	19,000	14,000		14,000	5,000	
ポグ交流大会開催	100,000	100,000		100,000	0	
広報・調査活動				0	0	
研修会等開催・参加				0	0	
その他の活動	100,000			0	100,000	
ポグマージ+配置				0	0	
2 旅 費	251,780	112,780	0	112,780	139,000	
会議開催	121,000	77,000		77,000	44,000	
スポーツ教室開催				0	0	
ポグ交流大会開催				0	0	
広報・調査活動				0	0	
研修会等開催・参加	60,780	35,780		35,780	25,000	
その他の活動	70,000			0	70,000	
3 信 用 料	149,000	84,000	111,930	195,930	-46,930	
会議開催				0	0	
スポーツ教室開催	51,000	36,000		36,000	15,000	
ポグ交流大会開催	48,000	48,000		48,000	0	
広報・調査活動				0	0	
研修会等開催・参加				0	0	
その他の活動	50,000		111,930	111,930	-61,930	
4 印刷製本費	314,000	0	550,700	550,700	-236,700	
会議開催				0	0	
スポーツ教室開催				0	0	
ポグ交流大会開催				0	0	
広報・調査活動	100,000		243,181	243,181	-143,181	
研修会等開催・参加				0	0	
その他の活動	214,000		307,519	307,519	-93,519	
5 消 耗 品 費	354,220	289,544	8,820	298,364	55,856	
会議開催				0	0	
スポーツ教室開催	154,176	119,000	8,820	127,820	26,356	
ポグ交流大会開催	200,044	170,544		170,544	29,500	
広報・調査活動				0	0	
研修会等開催・参加				0	0	
その他の活動				0	0	
6 会 議 費	0	0	0	0	0	
会議開催				0	0	
7 通信運搬費	32,000	0	0	0	32,000	
会議開催				0	0	
スポーツ教室開催				0	0	
ポグ交流大会開催				0	0	
広報・調査活動				0	0	
研修会等開催・参加				0	0	
その他の活動	32,000			0	32,000	
8 賃 金	0	0	0	0	0	
その他の活動				0	0	
9 保 険 料	24,000	24,000	0	24,000	0	
その他の活動	24,000	24,000		24,000	0	
10 雑 役 務 費	156,000	0	204,226	204,226	-48,226	
広報・調査活動			82,688	82,688	-82,688	
その他の活動	156,000		121,538	121,538	34,462	
合 計	1,500,000	624,324	875,676	1,500,000	0	